

科目名		担当教員名	学期
ビジネスアカウンティング Business Accounting		紺野 剛	後期
目的	財務諸表を作成し、利用するために必要な基本的な会計知識と経営成績の理解力を、各社の公表財務諸表等の学習・分析を通じて習得することを目的とする。		
概要	財務諸表がどのように作成されているのかを理解し、財務諸表等から得られる会計情報から、どのように経営成績を理解し、活用するのかを学習する。前半は特定の会社の財務諸表等を EDINET 等から入手し、当該会社の財務諸表の作成原理・会計方針等を理解する。後半は、これを受けて財務諸表の構成要素ごとの経営成績を正しく理解するために、特定の会社の経営成績を学習・分析する。		
到達目標	財務諸表の作成原理ならびに業績評価を行うための基本的な会計および分析力を理解するとともに、財務諸表の作成・分析結果を効果的なプレゼンテーションに結び付けることができること。		
成績評価の基準と方法	「ビジネスアカウンティング」に関する発表（40%）、中間理解度チェック・最終理解度チェック（40%）と授業での発言等（20%）で評点をつけ、A（20%）、B（40%）、C（30%）、D（10%）の比率を目安として相対評価する。		
履修条件	「財務会計概論」を修得済みであるか、もしくは同程度の会計知識を有していること。		
授業計画			
第1週	ビジネスアカウンティングの概要 ビジネスアカウンティングの学習方法 ビジネスアカウンティングの本質とフレームワーク 財務諸表の構成		
第2週	ビジネスアカウンティングの論理 財務諸表の基本的フレームワーク 財務諸表の開示制度と意義 会計、会計法規、会計基準と会計情報 各種財務諸表の作成原理		
第3週	財政状態と損益計算の作成原理 財務諸表の作成原理と会計方針 会計方針の変更		
第4週	個別財務諸表と連結財務諸表 連結財務諸表の開示制度		
第5週	連結財務諸表の作成原理 企業結合の会計		
第6週	IFRSs（国際財務報告基準）の基本構造		
第7週	IFRSs（国際財務報告基準）の影響と課題 中間理解度チェック		

第 8 週	特定企業を対象とする作成者側からのプレゼンテーション
第 9 週	財務諸表分析のフレームワーク P/L 分析のためのフレームワーク B/S 分析のためのフレームワーク
第 10 週	キャッシュフロー分析のためのフレームワーク 財務諸表分析の事例研究
第 11 週	総合業績分析のためのフレームワーク 経営分析のフレームワーク
第 12 週	経営戦略・活動と会計情報の関連分析 経営戦略による会計情報への影響分析
第 13 週	セグメント情報分析のためのフレームワーク 経営・戦略分析の事例研究
第 14 週	企業分析の総括 最終理解度チェック
第 15 週	特定企業を対象とする利用者側からのプレゼンテーション 最終理解度チェックの確認、ビジネスアカウティングの総括
テキスト 参考書等	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『要説経営分析 五訂版』青木茂男他著（森山書店、2016年） ・『IFRS 財務諸表の読み方』石田正他著（中央経済社、2011年） ・『経営分析入門』大津広一著（ダイヤモンド社、2009年） ・『企業分析』岸本光永監訳（中央経済社、2002年） ・『新・経営資源の測定と分析』紺野剛著（創成社、1994年） ・『企業分析入門』斉藤静樹監訳（東京大学出版会、1999年） ・『新版経営分析事典』日本経営分析学会編（税務経理協会、2015年） ・『IFRS の考え方と実務対応』日本公認会計士協会編（日本公認会計士協会出版局、2010年） ・『経営分析ハンドブック』日本経済新聞社他編（日本経済新聞社、1987年） <p>上記以外は、必要に応じて指示する。</p>
その他 特記事項	最終理解度チェックにおいては、電卓を使用する。